【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成21年4月23日(2009.4.23)

【公表番号】特表2008-537731(P2008-537731A)
【公表日】平成20年9月25日(2008.9.25)
【年通号数】公開・登録公報2008-038
【出願番号】特願2008-500875(P2008-500875)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｆ　7/21　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｆ　7/21

【手続補正書】
【提出日】平成21年3月9日(2009.3.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
溶媒とフォスファゼン超強塩基との存在下、式$RSiX_3$を有するシランカップリング剤を反応させる段階を含む、官能化ＰＯＳＳモノマーの調製方法であって、ここで、
Ｒは、水素、シロキシ及び脂肪族、芳香族及びオレフィン基から成る基より選択され、ここで前記基は、アルコール、エステル、アミン、ケトン、オレフィン、エーテル及びハライドから成る基より選択される反応性官能基を含んでもよく、及びフッ素化置換基を含んでもよく；
Ｘは、ＯＨ、Ｃｌ、Ｂｒ、Ｉ、アルコキシド（ＯＲ）、ホルメート、アセテート（ＯＣＯＲ）、酸（ＯＣＯＨ）、エステル（ＯＣＯＲ）、パーオキサイド（ＯＯＲ）、アミン（NR_2）、イソシアネート（ＮＣＯ）及びＲから成る基より選択され、
各Ｒ及び各Ｘは、同一であるか異なってよいものである、
調製方法。
【請求項２】
請求項１記載の方法であって、超強塩基は、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ３及びＰ４型フォスファゼンからなる群より選択される方法。
【請求項３】
請求項１記載の方法であって、異なるシランカップリング剤の混合物が反応されることにより、官能化ＰＯＳＳモノマーを調製する方法。
【請求項４】
請求項１記載の方法であって、異なる超強塩基の混合物が、均一系触媒或いは共試薬（coreagent）として活用される方法。
【請求項５】
請求項１記載の方法であって、異なる溶媒の混合物が活用される方法。
【請求項６】
請求項１記載の方法であって、不均一系触媒或いは共試薬（coreagent）として、超強塩基を使用して、官能化ＰＯＳＳモノマーにする連続的プロセスが活用される方法。
【請求項７】
溶媒とフォスファゼン超強塩基との存在下、$RSiX_3$、R_2SiX_2、及びR_3SiXからなる群より選択される式を有するシランカップリング剤により、ＰＯＳＳシラノー

ルをシレートする段階を含む、官能化ＰＯＳＳモノマーの調製方法であって、ここで、
Ｒは、水素、シロキシ及び脂肪族、芳香族及びオレフィン基から成る基より選択され、ここで前記基は、アルコール、エステル、アミン、ケトン、オレフィン、エーテル及びハライドから成る基より選択される反応性官能基を含んでもよく、及びフッ素化置換基を含んでもよく；
Ｘは、ＯＨ、Ｃｌ、Ｂｒ、Ｉ、アルコキシド（ＯＲ）、ホルメート、アセテート（ＯＣＯＲ）、酸（ＯＣＯＨ）、エステル（ＯＣＯＲ）、パーオキサイド（ＯＯＲ）、アミン（NR_2）、イソシアネート（ＮＣＯ）及びＲから成る基より選択され、
各Ｒ及び各Ｘは、同一であるか異なってよいものである、
調製方法。

【請求項８】
請求項７記載の方法であって、超強塩基は、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ３及びＰ４型フォスファゼンからなる群より選択される方法。

【請求項９】
請求項７記載の方法であって、異なるＰＯＳＳシラノールとシランカップリング剤の混合物がシレートされる方法。

【請求項１０】
請求項７記載の方法であって、異なる超強塩基の混合物が、均一系触媒或いは共試薬（coreagent）として活用される方法。

【請求項１１】
請求項７記載の方法であって、異なる溶媒の混合物が活用される方法。

【請求項１２】
請求項７記載の方法であって、超強塩基を均一系触媒或いは共試薬（coreagent）として使用して、連続的シレーションプロセスが活用される方法。